



さゆりっ子

No.9

文責 畠林一成

日常とつながり、安心して

～令和7年度の行事に向けて～

12月20日付で「令和7年度 信学会なかよし音楽会の自園開催について」の通知が信学会から配信されました。

上田千曲地区では上田市のサントミュージーゼでなかよし音楽会が行われてきました。今年は久しぶりに4園が一堂に集い、発表を聞き合うことができました。そして発表を通して表現し合う楽しさに十分浸ることができました。

通知をご覧になり、「どうしてやめるの?」「サントミュージーゼで発表するのを楽しみにしていたのに…。」「とても残念。」と思われた方もいらっしゃると思います。

音楽会の目標は

- ・友だちと協力して楽しくすすんで参加する
- ・曲の感じを生かして歌い、演奏する
- ・お友だちの歌や合奏を静かに聴く
- ・日常生活の中で、一層音楽に親しむようにする

とあります。（「信学会 教育課程」より）

音楽会の目標と信学会が掲げている「子どもが主役」の教育方針を重ねていくと今回の提案の求めている方向性の理解が深まると思います。

信学会の通知にありますように「幼児期においては子どもたちが安心できる環境で、のびのびと音楽を楽しみながら演奏すること」を重要と考えています。保育は環境を通して行う教育であるという考えが新しい指導要領で明確に打ち出され、小学校低学年段階まで波及しようとしています。音楽会という環境に含まれる教育的価値を幼児に押し付けたり、詰め込んだりするのでなく、園児が自ら興味、関心をもって音楽会に取り組んでいく姿を求めています。そのために「安心して、のびのびと活動できる」環境を整えてあげることが一層大事になってきます。

もちろん、「会場を自園にする」ことだけで環境を整えたとは思っていません。楽しい音楽遊びを軸に発表の内容、方法も見直していきたいと思っています。

年長さんが1年生の音楽会の練習を見学した時に、一緒に「にじ」を歌いました。園児が手話をつけて歌っているのを見て、小学生も一緒に手話をし始めたんです。



戸倉小学校の1年生との交流の際、園児と小学生との心温まる、自然なかかわりの姿を教頭先生がしみじみとお話してくれました。さゆり幼稚園での音楽会も体育館に集まった園児、保護者のみなさんが音楽を通してほっこりする時間になっていけたらいいなと思っています。園児、保育士、保護者のそれぞれの主体性を大切にする保育（「共主体」の保育）の具現の好機であると思っています。一層のご理解、ご協力をお願いします。



こんな姿につながっていく

1月16日に行われた鈴の音会で、「お子さんが小学校に入学してみて、幼稚園で育っていて良かったなと思ったことはどんなことがありますか？」を話題にする時間がありました。

0（ゼロ）から1を生み出す力のベースができていた

12月にクラスでクリスマス会をやることになった。担任の先生が、「好きなメンバーで、好きなことを考えてお楽しみを準備してごらん。」と話された。

お話をつくるのが好きなうちの子は、仲間と相談して仲良く発表することができました。いくつもの発表に関わって登場する子もいました。

幼稚園のときに仲間と考えて決めていく場面をつくってもらっていたおかげだと思いました。

授業で時間を設けるではなく、3週間ほどかけて休み時間だけを使って子どもたちが準備をしていったとのことでした。

1年生のこの時期に「自分たちで…」と提案されたこと自体に正直驚きました。担任は他の活動の様子を通して、この子たちならできるだろうと考えられたのだろうと思います。そして途中も必要な相談に乗り、支援の手は入れているかと思いますが、力のある子どもたち、信じる先生の強さだと思いました。



そしてそのベースとなる「創り出していく力」は幼稚園で育っていったということ。学年が上がる、行事を迎える毎に、お部屋の先生方は子どもたちの考え、思いを工夫して位置づけています。場面によっては「どんなことしたい？」から内容、方法を決め出していきます。そういうときは「話し合い」という活動が有効であり、必要になります。

「話し合い」を段階的に、継続的に実践してきた成果が、小学生になり自分たちだけで決め出していこうという場面で現れたのだと思います。

幼稚園で育ってきている力を大事に小学校で育ててほしい、成長でつながってほしいという思いが一段と強くなる一コマでした。

給食二題（1／28）

年中の子の朝ごはんを用意するときちょっとおまけの果物を用意したり、お気に入りのおかずを添えたりと気を遣っている様子を時々我が家でも見ることがある。

園では上手に目標を持たせている場面があった。ご飯を完食するとお弁当箱の底に貼ってあるキャラクターが見えるのである。未満さんには「キャラクターが見えるようになる」ことの方が優位な目標になっているかもしれないが、このことをきっかけに今まで苦手だった食べ物も一口食べてみたり、少しなめてみたりしている姿が出てきた。自然と「食べる」ことへの抵抗もなくなってきており、なるほどと思った。



年長さんになると少しずつ自分から食べようとするまで見守る。具なしの汁が飲めるようになったり、肉団子や魚を食べられるようになってきた。最近「〇〇はこれ好き、食べたことある。」と自分から食べるようになってきている。自分の中で納得して給食に向かう姿勢を大事に見届けていくことが最善である段階なのであろう。